

Technical Farm 通信

13号(2015年10月25日)

今月のレンズ

新しいZEISS一眼用レンズが発表！！

Milvus ミルバス

SLR Lens for Digital

デジタル撮像素子に最適化されたレンズ群



ドイツ カールツァイス社と株式会社コシナとの共同開発による製品群に、新シリーズZEISS “Milvus”(ミルバス)シリーズがラインナップされました。ミルバスは、デジタル撮像素子に最適化されたレンズ設計を特長とする一眼レフ用の交換レンズで、現在発売されているデジタルカメラにベストマッチした解像性能を持っています。ハイアマチュア・プロフェッショナル向けのレンズとして設計され、シリーズ全体で均一化された光学性能により、スチルをはじめ動画撮影にも好適です。

またZF.2マウントには絞りリングのクリック有無を切り替えできるデクリック機構を搭載。このデクリック機能により、動画撮影時のスムーズな絞り操作が可能になります。

レンズマウントはZE(キヤノンEF)およびZF.2(CPU付ニコンAi-S)で、それぞれ6種類の焦点距離の単焦点レンズ、計12本を発表。今後ラインナップも順次拡張の予定です。(発売日未定)

希望小売価格(税別):発売日未定

Milvus 2.8/21 ZE, ZF.2 ¥ 208,000

Milvus 1.4/85 ZE, ZF.2 ¥ 205,000

Milvus 2/35 ZE, ZF.2 ¥ 124,000

Milvus 2/50M ZE, ZF.2 ¥ 151,000

Milvus 1.4/50 ZE, ZF.2 ¥ 148,500

Milvus 2/100M ZE, ZF.2 ¥ 214,500



Milvusシリーズの特長:

- デジタル撮像素子に最適化されたレンズ設計
- シリーズ全体を通じ均一化された光学性能
- 優れたコントラスト再現性
- カラーブリンジ(偽色)の抑制
- 高度なコーティングと反射防止処理
- 極めてモダンで機能的な外観デザイン
- 絞りの“デクリック”機構を搭載(ZF.2)

編集長 うっちーのつぶやき

あっという間に来月は放送機器展 [InterBEE2015]です。

今年もテクニカルファームは出展します。 ホール4 NO.4204 です。

三脚のマフロット社の隣です。

社長片岡もコツコツ準備しております、毎年恒例のTFねじ回しも新しいデザインで配布予定です。

大人気のB4レンズ変換Mount TF-B4toPL/EF*35FII-FrameとEOSC300Mark IIの組み合わせなどを予定しております。

Inter BEE 2015
International Broadcast Equipment Exhibition
11.18 水 ▶▶▶ 20 金 幕張メッセ

今月の撮影アイテム

アメリカFILMPOWER社より

片手ギンバルNebura4000Liteの
兄貴ができました。

「Nebura4200Lite」なんと今度は
積載重量1.6kgまでOK

EOS5Dがいけちゃうんです。フフ
そしてそして頭がぐーんとアップして
コントローラーボードのコンピューター
が32bitに！！

取り外しのバッテリー仕様もGoodですね。



販売価格112,320円(税込)



両手ハンドルにスプリングついた
5軸仕様も発売。
取り外しでワンハンドルと切り替え可

販売価格140,184円(税込)

今月の三脚

凄い数の修理をしてるんでしょうね。

株式会社エイ・ステージ リペア事業部
〒104-0054 東京都中央区勝どき2-8-19 近富倉庫5F
電話(03)6219-7271
FAX(03)6219-7272
E-MAIL repair@a-stage.jp

今回は、日本で一番Manfrotto製の修理
をやっている会社を御紹介します。
株式会社エイ・ステージ
<http://a-stage.jp/repair.html>



今月のカメラ情報

ドローンで有名なメーカーDJIからジンバ付の4kカメラ
OSMO !! 三脚なしに簡単に4K撮影ができちゃう
かもしれません、、、
安いし、、、未来のカメラはもうすぐそこにきてますね。
詳しくはWebを フフフ

<http://www.dji.com/ja/product/osmo>



今月のWikipedia

(毎月、うちーがWikipediaで調べた事をちらっと教えちゃいます。)

4K解像度

4K解像度(よんケイかいぞうど、フォーケイかいぞうど)とは、横4,000×縦2,000前後の画面解像度に対応した映像に対する総称である。Kは1,000を表すSI接頭辞「キロ」の意味で、横・縦の解像度を意味する4K2Kとも呼ばれる。現在民生用では「4K解像度」「4K」と言う場合、以下のどちらかを指して使われる。

なお、2015年現在の日本の地上デジタル放送や通常のBlu-rayは2K放送(Full-HD)以下の解像度がほとんどである。

名称	横縦ピクセル	アスペクト	画素数	主な用途
DCI 4K	4096×2160	1.90:1	8,847,360	映画、カメラ
4K UHD TV	3840×2160	16:9	8,294,400	テレビ放送、テレビ受像機、ディスプレイ

名称	放送方式	開始時期
BS	ISDB-S	2016年
110度CS(右旋円偏波)	ISDB-S	2020年
110度CS(左旋円偏波)	ISDB-S	2016年
CS(124/128度)	DVB-S2	2014年

4K UHD TV

4K UHD TV(4K UHD)はITUが定めた規格。フルハイビジョン(1080i)のちょうど4倍の画素数の映像である。アメリカでは有料ネット配信大手が4Kで自社製作したドラマを配信している^[1]。韓国では2012年10月から地上波による送信が行われており、2014年4月には3チャンネルとなった^[2]。またケーブルでも放送されている^[3]。

日本

2013年の4K対応テレビの出荷台数は27万台であった。放送では2014年6月2日にChannel 4Kが開局して4K狭帯域衛星放送を開始した^[4]。またISDB方式による4K広帯域衛星放送が2016年以降に予定されている^[5]。この2つのサービスにはアンテナやチューナに互換性がない。圧縮方式にH.265(HEVC)、テレビとの接続にHDMI 2.0、 HDCP 2.2を採用している。

DCI 4K

DCI 4Kは映画制作会社が加盟する団体 Digital Cinema Initiatives(DCI)で定められている4Kである。そのうち、もっとも使用されるアスペクト比で使用されるのが4096×2160である。この解像度で撮影するカメラも、Canon EOS-1D CやSony CineAlta F65など、一般向けに市場に出ている。DCI 4Kには4096×2160のほかに、別のアスペクト比、シネスコ(2.39:1)やビスタ(1.85:1)向けの解像度がある。これらは4096×2160をアスペクトに合わせてカットしたもので映画の上映で使われてい

その他の4K

デジタルシネマを撮影する用途で開発されたカメラでは、以下の解像度が使用される^[6]が、これ以外にも複数のフォーマットがある。

アスペクト解像度1.90:14096×216016:94096×23042:14096×2048ダルサオリジン - 1.98:1(4046×2048)

2003年に発表、2006年10月から有料貸出事業開始。映画撮影で本格的に使われた最初の4Kカメラとされる^[7]

。レッド・デジタル・シネマカメラ・カンパニー レッドワン - 4K(4096×2304)4.5K(4480×1920)

2007年8月から販売。

フルHDTV・UHD TV

	通称	画素数 (横×縦)	アスペクト比 (横:縦)	画素数
2K(1080i)	フルハイビジョン	1920×1080	16:9	2,073,600
4K(2160p)	4K UHD・QFHD・4KウルトラHD	3840×2160	16:9	8,294,400
8K(4320p)	スーパーハイビジョン・8K UHD	7680×4320	16:9	33,177,600

アスペクト	解像度
1.90:1	4096×2160
16:9	4096×2304
2:1	4096×2048

発行元

株式会社テクニカルファーム

営業部 担当 内田 拓伸

〒151-0066 東京都渋谷区西原1-28-4興和ビル2階